

# 中間評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会 平成21年10月9日(金)

研究課題	自然環境のもたらす保健休養上の効用に関する研究	
研究期間	平成20年度～21年度	
	評価項目	平均点
	研究の進捗状況	3.4
	研究内容の妥当性	3.4
	目的達成の可能性	3.4
	期待される研究成果	4.2
	研究継続の必要性	4.0
	<b>総合評点</b>	<b>3.6</b>
<p>高原に滞在することが、ヒトに快適環境をもたらす解明にむけ、基礎データを構築する研究として一定の成果を上げた。しかし、ひとが「快」と感じる時の評価においては、超高周波数音以外にも、自然音のスペクトラム、心理的効果など多くのパラメータによる検討が必要であり、また音の人間への効能評価の手段についても、ドーパミン、アドレナリン等の発生状況の把握も取り込んだ検討など今後の課題とされる。</p>		